

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生においては算数に課題がある。特に面積や小数、分数の計算の定着率が低い。6年生は県、全国ともにクリアしている。しかし、自分の考えを式や言葉で説明するような記述式の問題の正答率が低い。 <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業が楽しくわかりやすい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は84%。「単元末評価テスト平均点85点以上」では50%、「平均80点以上」では100%の達成率であった。 	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習の意義」や「テストなどでの間違いのやり直し」などの項目では県などの数値を上回っていた。しかし「家庭学習の時間の目安を決めている」「予習や復習をする」「辞典を引いて答える」という質問に肯定的に答えた児童の割合が県などに比べて低い。 ・ 「平日のテレビやDVDに費やす時間」は半分の児童が0～1時間である一方、3時間以上と極端に多い児童も20%おり、二極化の傾向にある。
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝え合い、高め合う表現力の向上」については児童の言語活動の充実に取り組んできた。ペアトークを中心に、1時間の授業の中で互いの考えを伝え合う活動を設定した。取組状況としては、各教員がそれぞれの授業の中でペアやグループ、学級全体での話し合い活動を意識しながら授業をすることができた。 ・ ホワイトボードの活用など言語活動の工夫については取組の差があったので今後の課題となる。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキルタイムでの視写の取組については全学年で達成することができた。家庭学習の取組については、各学年で定期的に検証・改善をしながらすすめてきた。学年によって差があるものの児童アンケートでは90%近くが肯定的な回答をしているが、保護者との認識のずれもある。 	

学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語や算数等の単元末評価テストの平均を85点以上にし、50点以下を5%以下にする。 ・ アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」の質問に対し肯定的に答える児童の割合85%以上にする。
------------	--

